

生成AIを活用した総合計画作成パイプライン（邑計画メソッド）

AI : このAIタグではAIまたは生成AIを活用した効率化手法について解説しています。なお、mdファイル（マークダウンファイル）とは、箇条書き表現に優れたプレーンテキストファイルのことで、人間にもAIに読みやすい形式として広く普及しているファイル形式のことを指します。

フェーズ2：基本構想・基本計画の立案

フェーズ1：現状分析

将来像(目指すべき姿)の立案（前期基本計画）

対象自治体がこれまで掲げてきた歴代の『将来像（目指すべき姿）』及びその説明文や参考とした事例、風土調査結果（風土.mdファイル）等とともに、課題抽出の取りまとめ結果（課題抽出.mdファイル）を生成AIに読み込ませ、説明文とともに『将来像（目指すべき姿）』（案）を複数案生成する。なお、基本計画を作成後に見直すこともある。

対象自治体がこれまで掲げてきた歴代の『将来像（目指すべき姿）』及びその説明文や参考とした事例、風土調査結果（風土.mdファイル）等とともに、課題抽出の取りまとめ結果（課題抽出.mdファイル）を生成AIに読み込ませ、説明文とともに『将来像（目指すべき姿）』（案）を複数案生成する。なお、基本計画を作成後に見直すこともある。

（補足）弊社の主なAI活用研究歴
「大規模言語モデル（LLM）のチューニングによる地方行政文書の下書き生成の試み」（岩手大学共同研究事業 令和5年）

生成に関しては、「温度（Temperature）パラメータ」を0~1の間で変えながら、多様性のある『将来像（目指すべき姿）』を複数立案する。

【温度パラメータの役割】

パラメータ値	特徴	適した用途
低(0.0~0.3)	正確、一貫性、保守的	論理的な説明的な文章（堅い）
中(0.3~0.7)	バランス型	一般的な会話法メール文
高(0.7~1.0)	創造的、多様、飛躍的	詩的・文学的な文章（柔らかい）

→将来像.mdファイル作成

現行計画の基本計画評価結果の整理

現行計画の施策別の評価結果。多くの自治体では、施策（または事業）別評価シートで評価結果が管理されている。施策評価が行われていない自治体に対しては、弊社仕様の評価シートを全担当課に配布し、施策別の評価結果を得る。

評価シートをもとに、施策毎の背景（現状と課題）、成果、改善点、施策に含まれる関連事業の達成度や継続・終了・新規追加、評価指標の継続・変更・新規追加などについて、施策別にID番号を付けて『現行施策一覧表』に整理し、現行施策の要変更点・改善点を“見える化”する。

『現行施策一覧表』は、「ID番号」「基本目標」「施策名」「現状と課題」「施策の内容」「成果」「施策の評価結果」「関連事業」「関連事業の（達成度）評価結果」「評価指標」「評価指標の数値」「評価指標の達成状況」「住民の役割」などの列項目で整理する。

施策評価シートから『現行施策一覧表』を作成するには大量のコピー&ペースト作業が必要になるが、生成AIで作成マクロを作成し、自動化させる。

→現行施策.mdファイル作成
→現行施策一覧表.xlsxファイル作成

新しい基本計画の立案

フェーズ1で作成した『課題一覧表ファイル』と、このフェーズ2でひとつ前に作成した『現行施策一覧表ファイル』を連結。

『課題一覧表』と『現行施策一覧表』を「課題名」と「現状と課題」をキー項目として連結し、新しい課題別にID番号を付けて『課題-施策一覧表』として再整理し、課題と施策の対応関係（ロジック・ツリー）を“見える化”するとともに、課題に対して施策が不足していれば「新施策」を追加検討する。

『課題-施策一覧表』は、『課題一覧表』と『現行施策一覧表』のそれぞれの項目に、『新課題名』を加えて整理する。

追加検討が必要となった施策案については、生成AIに『課題-施策一覧表』を読み込ませ、新施策の「施策名」「施策の内容」「関連事業」「評価指標」などの案を作成させる。

→課題-施策一覧表.xlsxファイル作成

評価指標のロジック調整

新しい基本計画の立案で整理された『課題-施策一覧表』に位置付けられている「評価指標」についても、右の観点から「課題」-「施策」-「評価指標」の関係ロジックについて見直し整理する。

『施策』と『施策』と『評価指標』の対応関係が適切かどうかを生成AIの推論モードで検討。必要に応じてDeep: Research機能を使って他市町村の事例を踏まえながら調整する。

→課題-施策一覧表.xlsxファイル更新

（補足）評価指標の関係ロジック評価項目

- ・ 施策目的と対応しているか
- ・ 成果指標か活動指標か
- ・ 毎年取得できるか
- ・ 担当課が管理できるか
- ・ 住民に意味が伝わるか
- ・ 基準値・目標値が設定できるか
- ・ 既存統計で継続把握できるか

分野別の基本目標の立案（前期基本計画）

分野別の基本目標は住民ニーズに即していることが前提なので、『課題-施策一覧表』の「分野（仮）」と「現行計画の基本目標」を参考としながら、庁内体制を考慮して分野を再検討する。

分野に応じて、分野別の施策群の内容から分野別の基本目標を立案する。なお、後期基本計画の場合は、基本目標（分野）は原則変えずに、その傘下の施策以下を変えていく。

分野別の施策内容を生成AIに読み込ませ、分野別の基本目標の案とその説明文を複数作成させる。

→基本目標.mdファイル作成
→課題-施策一覧表.xlsxファイル更新

重点施策の選定

住民ニーズからの観点として『アンケート課題ファイル』や『WS課題ファイル』を、また、行政側からの観点として『施政方針ファイル』を参考に重点施策候補を抽出する。

フェーズ1で作成した『アンケート課題ファイル』や『WS課題ファイル』、『施政方針ファイル』を参考に各基本目標分野から重点化の可能性のある施策を広く抽出し、抽出した候補施策を右の観点から5段階で評価し、合計得点の高いものを重点施策として位置付ける。

（補足）重点性の評価項目

- ・ 重要性：将来像の実現に大きく関わるか
- ・ 緊急性：計画期間中に早急な対応が必要か
- ・ 住民ニーズ：住民意見法アンケートで関心が高いか
- ・ 波及効果：他分野や地域全体への効果が見込めるか
- ・ 実現可能性：財源法体制法制度面で実行可能か
- ・ 象徴性：まちの個性や方向性を示す看板施策になり得るか

重点プロジェクトの立案

『課題-施策一覧表』において、1つの「課題」に複数の分野の「施策」が位置付けられている「課題」に注目。

『課題-施策一覧表』において1つの課題に複数の分野の『施策』群が位置付けられている『課題』を分野横断課題として位置付け、その分野横断課題に対応する『施策』群の中に重点施策が含まれるものを「重点プロジェクト」とする。あるいは、分野横断課題に対応する『施策』の重点性評価の合計点が高いものを「重点プロジェクト」として位置付け、対応策や連携策を検討する。

重点性の評価結果を生成AIに読み込ませ、重点施策・重点プロジェクトの名称、目的、施策内容、目標について作成させる。

→重点プロジェクト.mdファイル作成
→課題-施策一覧表.xlsxファイル更新

計画書 素案作成

将来像の立案

基本構想・基本計画の立案

重点施策・重点プロジェクトの立案